



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●取付け調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか確認してください。本体と枠の間にすき間が生じ、本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。

■取付け上のおお願い

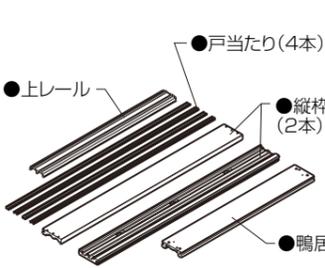
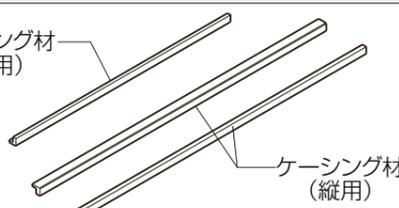
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。但し、叩き込まないようにして下さい。保持力低下の原因となります。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠の下地材及び、かい木には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 床材とツバ付薄敷すりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。ツバ材の取付けは、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
- 枠は倒れ、傾き、たいこ、つぶみ、ねじれがないように取付けてください。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 軽量鉄骨に直接取付ける場合は、同梱のねじでは取付けできません。現地にて鉄骨までかかる長さのねじを手配してください。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。埋込下枠が変形し、本体開閉不具合の原因となります。
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ（ガムテープ、養生テープなど）を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

■部材の明細 ※枠はノックダウン、本体は完成品

引違い戸用本体	引違い戸用枠	ケーシングセット(ケーシングタイプのみ)
 <p>1枚梱包×2</p>		
		 <p>引違い戸用敷居</p> <p>●下レール(2本) ●薄敷居 ●鴨居</p> <p>又は</p> <p>●下レール(2本) ●埋込敷居</p>

■枠用部品

組立て用皿小ねじM4×50	4本
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	5本
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6本

■薄敷居用部品

組立て用トラスタッピンねじφ4×50	4本
--------------------	----

■埋込敷居用部品

敷居取付け用ナベタッピンねじφ4×30	6本
---------------------	----

開口部の作り方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

製品寸法表

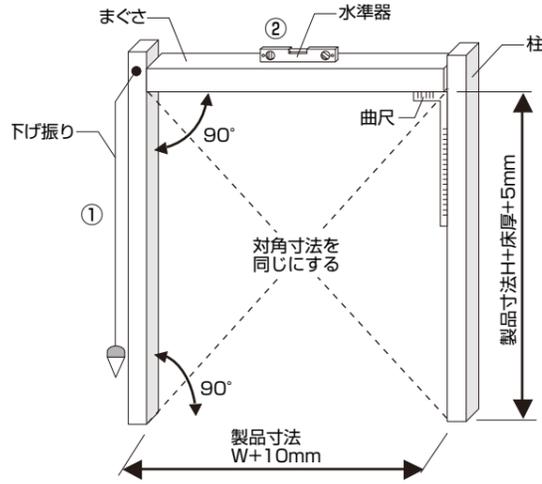
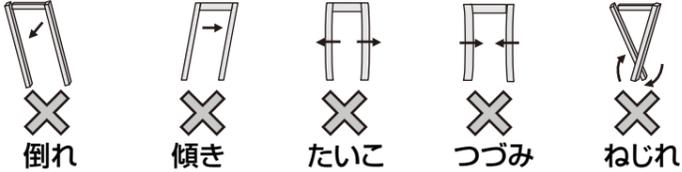
(単位: mm)

呼称	W	H
1620	1643	2023

①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。

②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでない、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



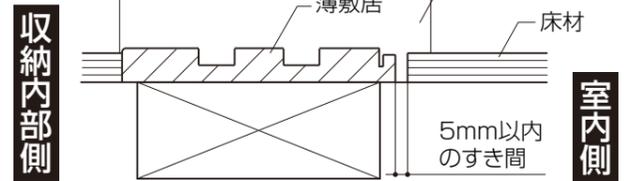
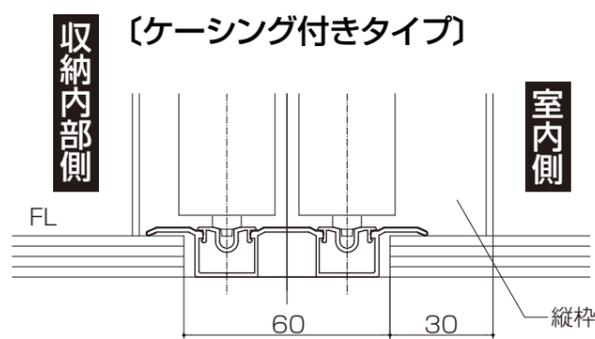
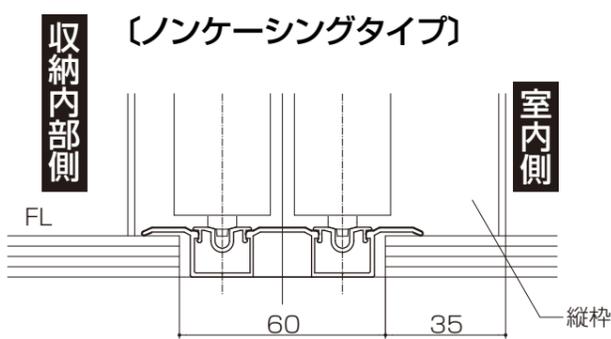
床の張り方

〔埋込敷居の場合〕

●下図のように室内側縦枠面よりノンケーシング: 35mm、ケーシング付: 30mmの位置から60mmあけて床材を張ってください。

〔薄敷居の場合〕

※枠取付け後、下図のように床材を張ってください。



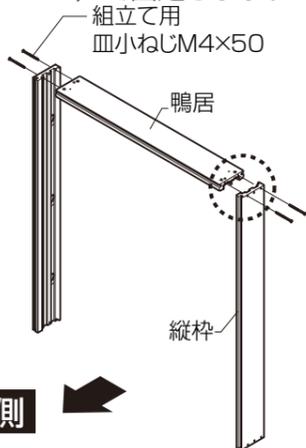
お願い
※床材と薄敷居のすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。

取付け順序

1 枠の組立て

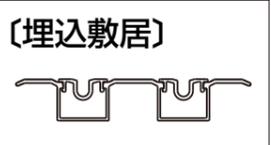
〔埋込敷居の場合〕

●図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。



室内側

枠組立て上のお願い
※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。

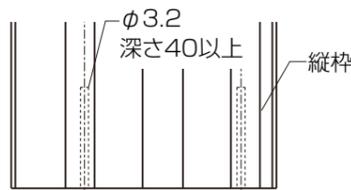


〔薄敷居の場合〕

●図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50およびトラスタッピンねじφ4×50)で固定します。

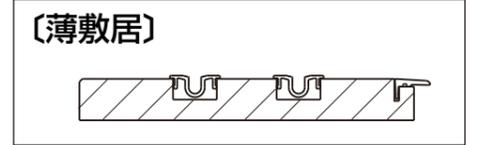
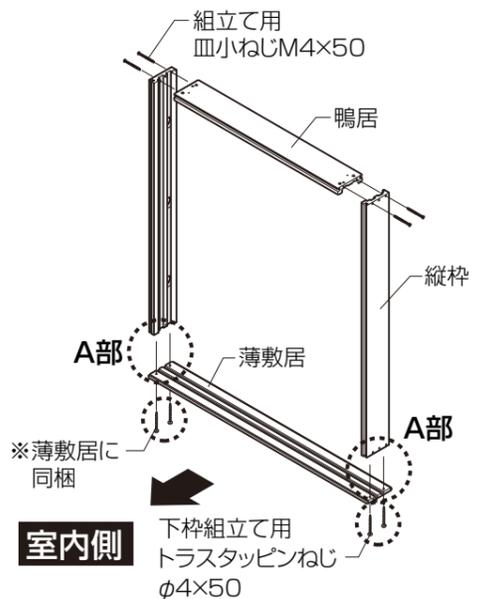
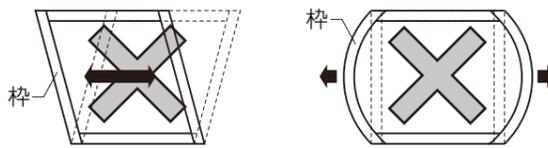
■A部詳細図

※縦枠(下穴加工済み)を切断せずにご使用してください。



枠組立て上のお願い

※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。



2 枠の取付け

開口部と、縦枠・鴨居との間にかい木を入れて取付けます。

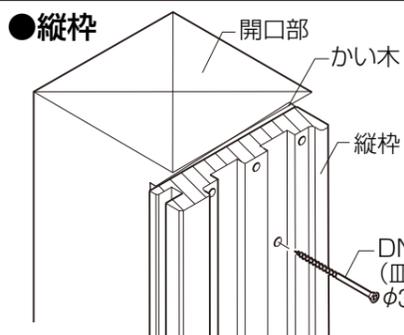
●鴨居

※鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。

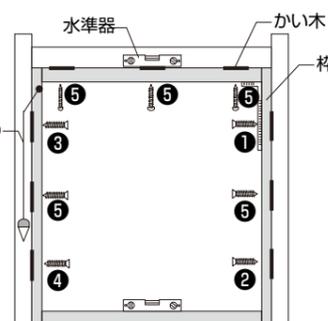
●縦枠

※DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。

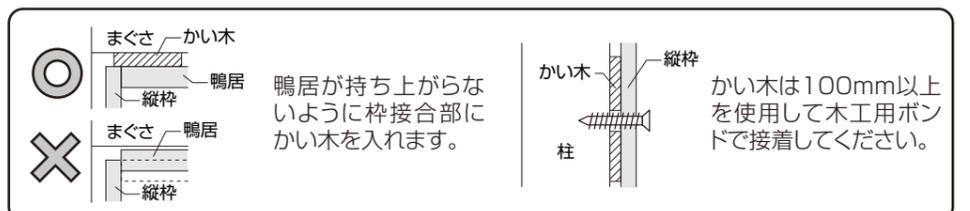
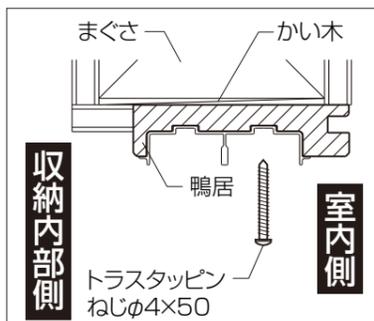
お願い
※枠の倒れ、傾き、たいこ、つづみ、ねじれがないように取付けてください。



《取付け要領》

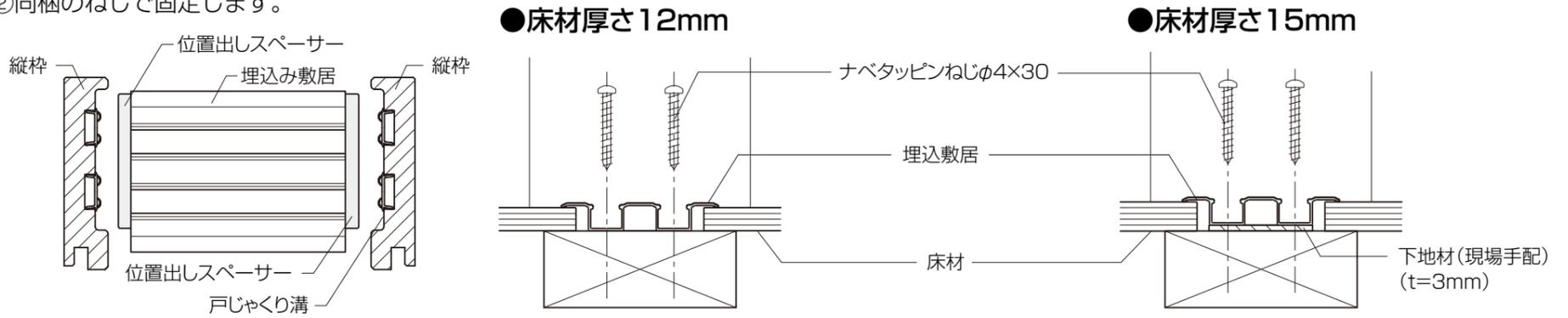


①枠を開口部にはめこんで、敷居・鴨居の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。
②下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。
③水準器で敷居・鴨居の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。
④下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。
⑤枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
※枠に水系を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。



〔埋込敷居の場合〕

- ①埋込敷居に付いている位置出しスペーサーを、縦枠の戸じゃくり溝に合わせます。
- ②同梱のねじで固定します。



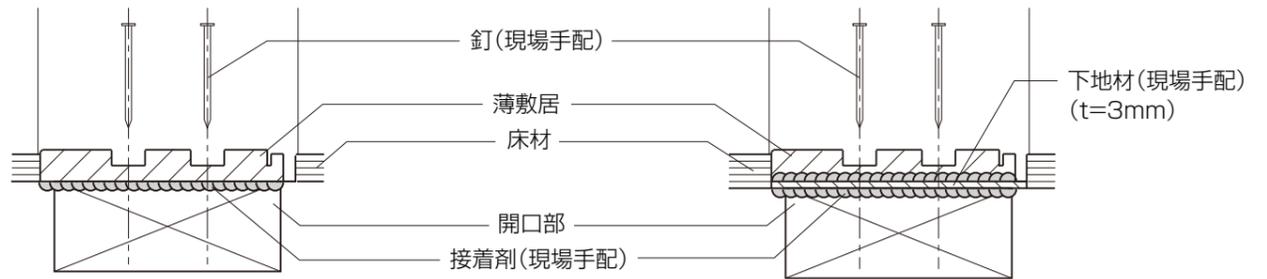
〔薄敷居の場合〕

●床材厚さ12mm

- ※必ず薄敷居に接着剤を付け、躯体に固定してください。
- ※釘は端部より100mm離し、450mmピッチで接着剤と併用して取付けてください。

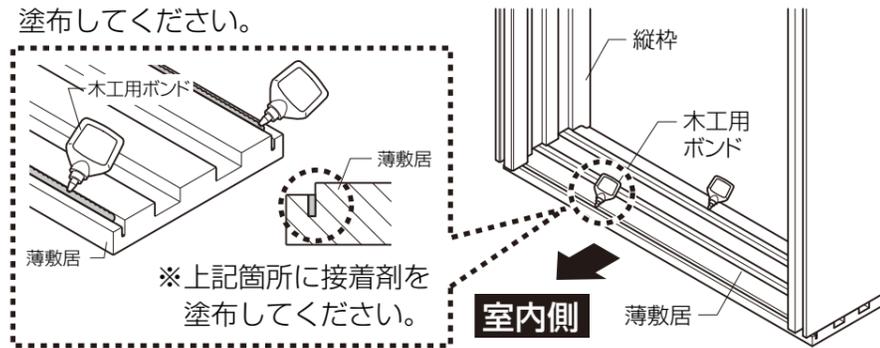
●床材厚さ15mm

- ※必ず薄敷居と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。

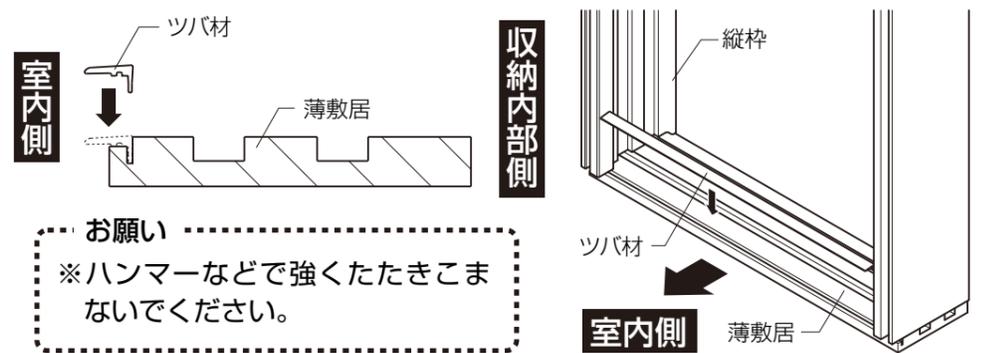


③ツバ材の取付け(薄敷居を使用する場合のみ)

- ①現場でツバ材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②薄敷居の溝に木工用ボンド(現場手配)を溝全長に隙間無く塗布してください。

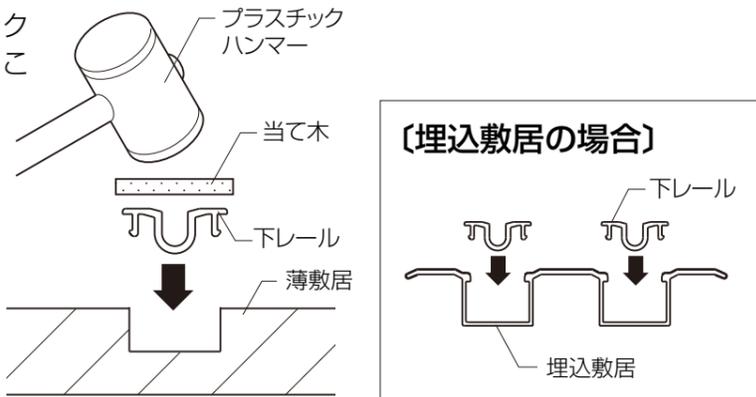


- ③ツバ材を溝に手ではめこんでください。

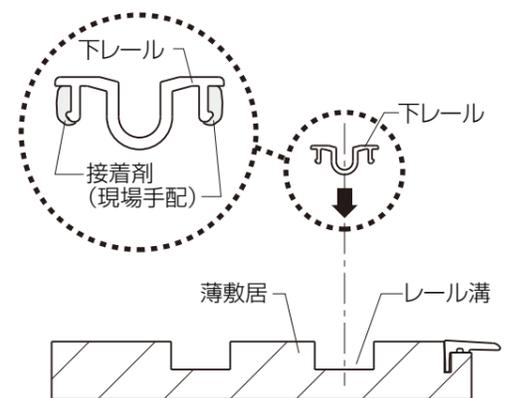


④下レールの取付け

- 敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたきこんで固定します。

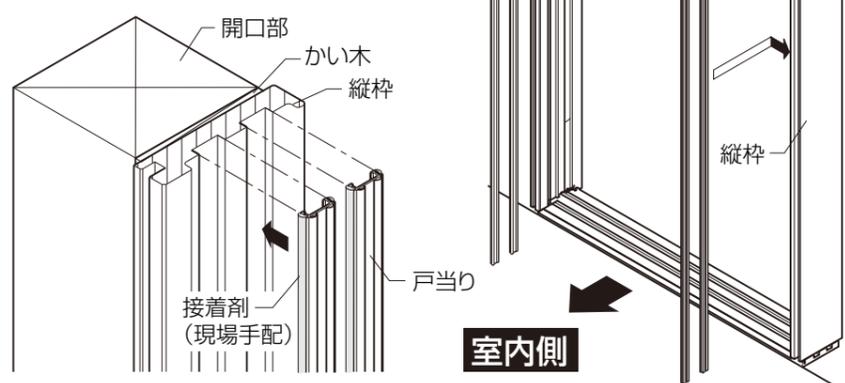


- ※接着剤は、レール溝にガタのある場合に使用してください。



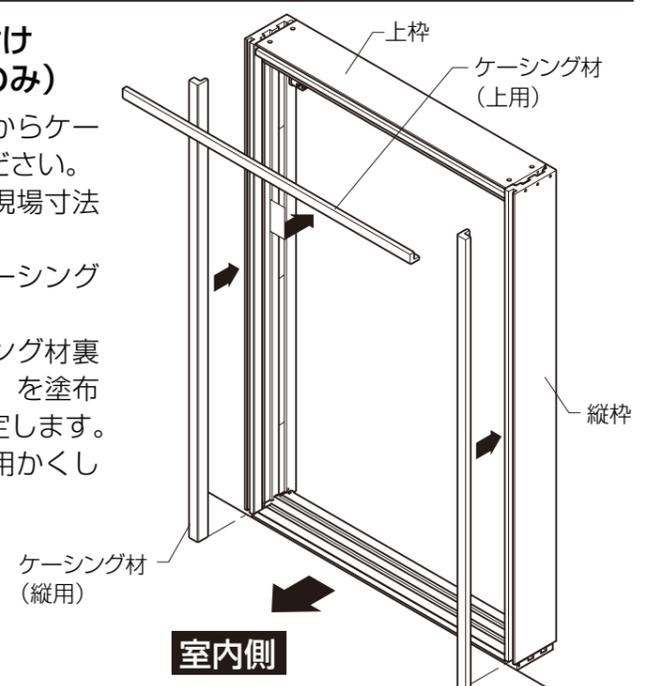
⑤戸当りの取付け

- 戸当りに接着剤(現場手配)を塗布して、溝をふさぎます。
- ※戸当りが長い場合は無理に入せずに必要量を切詰めてください。
- ※戸当りは必ず、下レール取付け後に取付けてください。



⑥ケーシング材の取付け(ケーシングタイプのみ)

- ※壁材・床材を仕上げからケーシング材を取付けてください。
- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
- ※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



■本体の建付け調整

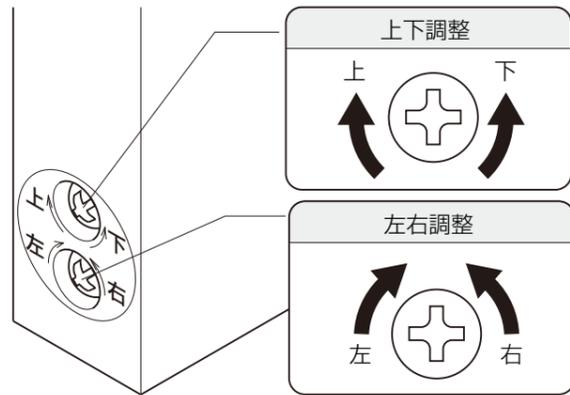
●本体には、上下方向、左右方向およびブレーキ力の調整機能が付いています。

〔上下調整(調整幅+4mm、-2mm)〕

●本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

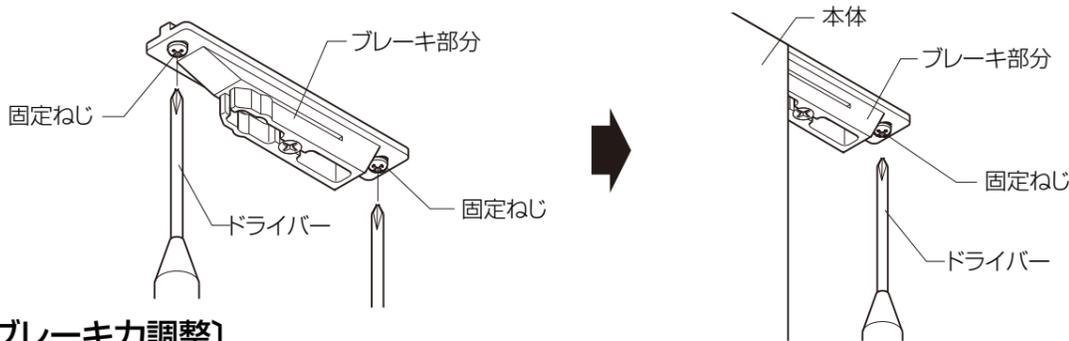
▲注意

●取付け調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか確認してください。本体と枠の間にすき間が生じたり、本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。



〔ブレーキの前後調整〕

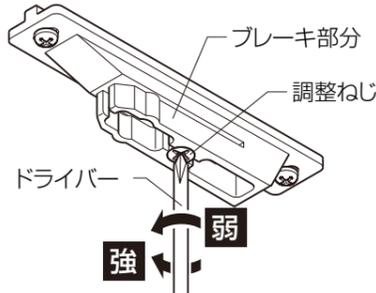
●本体の前後調整時、ブレーキの前後調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。



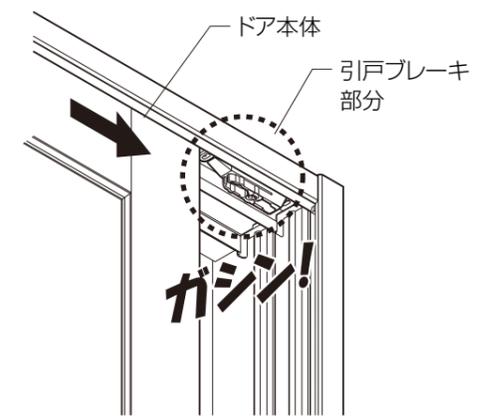
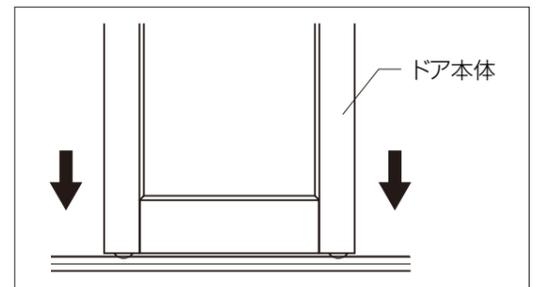
〔ブレーキ力調整〕

上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ねじで、ブレーキ力を調整してください。

- お願い
- ※調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
 - ・電動ドライバーは使用しないでください。
 - ※調整ねじを弱方向に回す場合、ねじ頭がブレーキの表面より出すぎないように調整してください。
 - ・回しすぎるとねじが抜けます。
 - ・出寸法を1.5mm以下としてください。



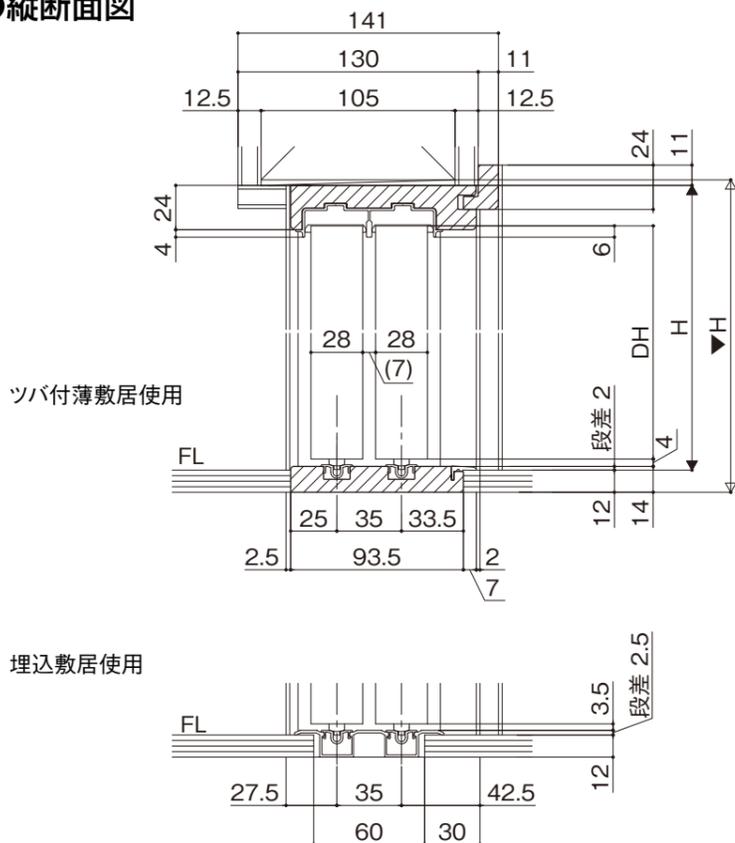
●本体がブレーキ部品に当たるときは、上下調整ねじを回して本体を下げてください。



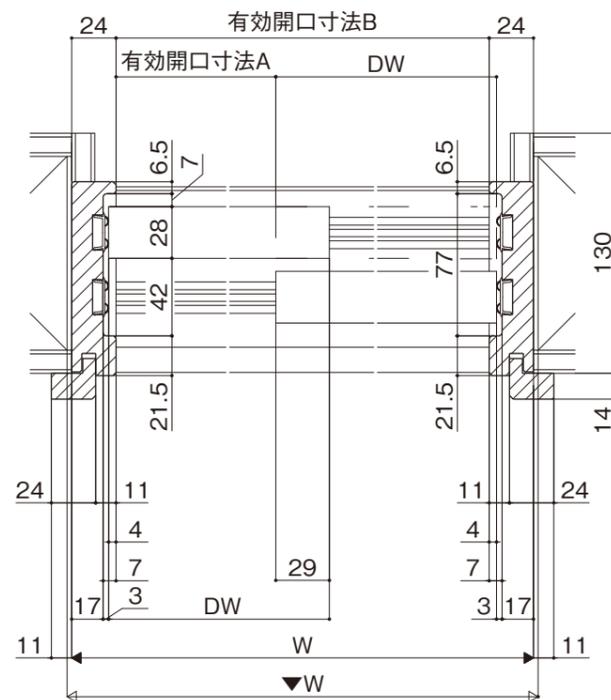
■納まり図

■クローゼット引戸ユニット 引違いタイプ ケーシング付

●縦断面図



●横断面図



基本寸法 (mm)	W呼称	W16
	W	1643
	H呼称	H20
	H	2023

W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1643)	783	1595